

「二枚ババ抜き」のルール(29Dec2025)

<競技人数> 2~10 数名程度

<使用するトランプ札>

•人数が多い時は、同じ大きさの多セットのトランプを使っても良い。

•そのすべてのババを入れる。

<ゲーム改良の理由>

•待ち時間を感じさせない新しいルールとする

•上がり順位が明確につけられるルールとする

<新ゲームのルール> (赤字がポイント)

(捨て札のルール)

- ① 手持ちの札で同じ数字の札が2枚揃ったら、捨てることができる。
- ② **ババは2枚揃っても捨てる**ことができない(無効試合について)
- ③ 試合開始前に札が無くなった人がいたら、無効試合とする(上がりの判定)
- ④ ①で手持ちの札が無くなった人は上り
- ⑤ 手持ちが2枚以下の人が、左隣りの人に札を取られ、札が無くなったときは、上り(ゲームの開始時の取り札の権利人)
- ⑥ ゲーム開始は、①で、**一番多く札を持ってる人が札を取る権利を持つこと**からゲームが開始する。その一人が決まらないときはじゃんけんで一人を決める(ゲーム途中の札を取る権利人について)
- ⑦ 札を取る権利人は、カードを取られた人である。それが1枚であっても2枚であっても構わない。(札を取る権利人の義務)
- ⑧ 札を取る権利人は、右隣の人から**2枚の札**を取る。右隣の人が1枚の札しか持っていない時は、さらにその先の人から1枚だけ取る。(取り札の例外とゲームの中断を避けるルール)
- ⑨ カードを取られた人は札が無くなるので、上りとなるが、それでは、次に**取る権利人が消滅**するので、その時は取った人(権利者)はさらにその先の人からも札を1枚だけとることで、**取る権利人が消滅しないような義務を負う**。(上がりの順位と敗者)
- ⑩ ⑧の操作で同時に複数の人が上った場合は、(i)取った人、(ii)取られた人など、上位の人から順々に上がったとみなす。
- ⑪ このようにして、上がった順番が矛盾なく決まる
- ⑫ 最後までババを持ってる人が負けとなる(不思議と一人の人にババが集まります)

「ダウト」のルール(12Aug2025)

<競技人数> 2~10 名程度

<使用するトランプ札>

•すべてのカード。ババ(複数枚可能)も使う。

<ゲームの概要>最初の人**の開示した札**に続き、順々に**1つ上の数字の札**を伏せて出していく。ただし、「K」の次は「A」とする。

出した札が怪しいと思われるときは、「**ダウト**」を宣言し「**真贋**」を確かめることができる。

その時は、「真」「贋」それぞれにペナルティがある。

早く札を出し終わった人が勝ちとなる。

<ルール>

- ◎「伏せ札の場」、「開示場」の二か所を準備する。
- ① 「ババ」を入れたトランプを全員**同じ枚数**配る。余った札は「**伏せ札の場**」として重ねて置く。
- ② 競技は「A」の札を持っている人が開示札とし「**開示場**」に置くことで開始される。「A」を持っている人が複数いるときは、じゃんけんで決める。
- ③ 反時計回りで次の人は開示された次の数字を声に出して、「**伏せ札の場**」に一枚の札を伏せて置く。この札は「真」「贋」どちらでも自由である。
- ④ 「ババ」は上がり札以外、常に真の札となる。
- ⑤ このように反時計回りに、数字を発しながら、順々に「**伏せ札の場**」の上に札を重ねてゆく。
- ⑥ **怪しい札が出たと思ったら「ダウト」を宣言**する。その時は出された札を開示し「**開示場**」に移す。宣言者が複数いるときは、これから出す順の早い人が宣言したものとする。
- ⑦ 開示札が「真」ならば、ゲームはそのまま進行する。ただし、「**ダウト**」を発した人へのペナルティとして「**伏せ札の場**」の札2枚が手札に加わることになる。
- ⑧ 開示札が「贋」ならば、「**ダウト**」宣言成功である。「**贋**」札のペナルティとして出した札および伏せ札一枚がおまけつきで返却される。また、宣言者のご褒美として、その人の手持ち札の中の一札を「**開示札場**」に出すことができ、以降この札を基準にゲームが再開される。その一枚が⑩の上がり札となってもよい。
- ⑨ ⑦⑧で必要な伏せ札が減った時は、適宜開示札から補充する。
- ⑩ 最初に札が無くなった人が勝ちとなる。
- ⑪ ただし「ババ」は**上がり札**では「**贋**」となるので誰かが「**ダウト**」宣言すれば、⑧に従うことになる。宣言されなければ上がれることになる。